

～次代を担う志木っ子を育む～ 志木市小中一貫教育がはじまります

市では、次代を担うたくましい志木っ子の成長につなげるため、小・中学校の教職員が義務教育9年間の児童生徒像を共有し、切れ目のない連続した学習・生活指導を行う「小中一貫教育」を推進していきます。

今月は、令和7年度から市内すべての小・中学校で本格的にスタートする小中一貫教育と教育現場の最前線に立つ各中学校区の先生たちの声を紹介します。

問合せ／学校教育課 ☎048(456)5367

志木市が目指す小中一貫教育

これまで小学校6年間と中学校3年間に区切られていた義務教育期間を9年間の切れ目のない連続した期間と捉え、小・中学校の教職員がいっしょになって「目指す児童生徒像」を共有し、学習・生活指導を行っていきます。

令和6年3月に策定した志木市小中一貫教育推進計画では、各中学校区の教育目標や目指す児童生徒像をはじめ、一貫性のある指導や地域の特性などを踏まえた児童生徒の交流、地域との連携などの取組内容を定めています。

小中一貫教育の設置形態

小中一貫教育を推進する学校の設置形態は、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」の2つがあり、令和7年度から市内すべての中学校区で小中一貫型小学校・中学校として小中一貫教育を推進します。なお、志木第二中学校区は、令和9年度から義務教育学校となる予定です。

Before

小学校
6年間

中学校
3年間

区切られた学習・生活指導から

After

小学校
6年間

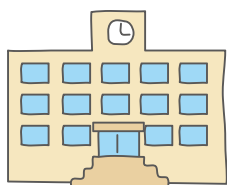
中学校
3年間

切れ目のない連続した9年間の学習・生活指導へ



◀市ホームページ
(小中一貫教育推進計画)

義務教育学校



9年
(前期課程6年
+ 後期課程3年)

修業年限

小学校6年
中学校3年

1人

校長

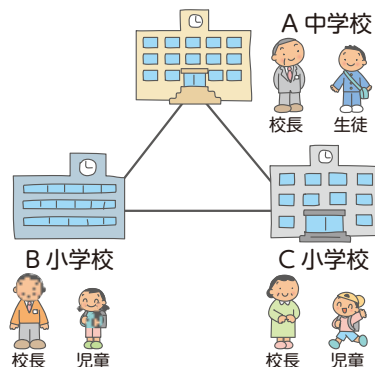
小・中学校
ごとに1人

小・中学校の
区別なく
1つの組織

教職員組織

小・中学校
ごとに別組織

小中一貫型小学校・中学校



小・中学生における意識の変化と小中一貫教育

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果によると、小学生と中学生では学校生活に対する意識に変化が生じていました。小中一貫教育を推進することで、意識の変化や学習のつまずき、発達の早期化やいわゆる「中1ギャップ」に対応し、教育の質の向上を目指していきます。

Q 学校に行くのは楽しいと思いますか？



新しいクラスになって友達が増えたり楽しいこともあるけど、楽しくないと感じてしまうことがあります。

A 「楽しい」と回答…小学校6年生:84.1%

中学校3年生:76.5%



9年間を見通し、発達の段階にあわせて楽しさを広げることや深めることができるように支援していきます。

Q 困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人に相談できますか？



いろいろな先生が授業をしてくれるけど、どうやって声をかけていいかわかりません。

A 「相談できる」と回答…小学校6年生:69.0%

中学校3年生:64.2%



小・中学校の先生が校種を超えて児童生徒に関わり、いつでも相談できると感じられる環境をつくっていきます。

Q 授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか？



中学校では、新しい環境や難しい勉強に慣れることで精一杯になってしまいます。

A 「生かしている」と回答…小学校6年生:83.8%

中学校3年生:73.1%



小・中学校の学びや指導方法をつなぎ、ほかの学習や社会に出ても生かせる力を育みます。

※令和5年度全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問調査(一部抜粋)

小中一貫教育に向けたこれまでの取り組み

新たな学園名を決定

各中学校区の教育目標や目指す児童生徒像の実現に向けて、一体的にマネジメントする組織(中学校区)の学園名(通称)を決定しました。

学園名(通称)	中学校区
いろはさくら学園	志木中学校区
志木の森学園	志木第二中学校区
宗岡みらい学園	宗岡中学校区
宗岡せせらぎ学園	宗岡第二中学校区

指導体制の整備・先生たちの研修時間の確保

協働した指導や児童生徒の個に応じた学習指導を充実させるために小・中学校相互の乗り入れ指導ができるような体制を整えています。

1週間の授業時間(週時程)の見直しを進め、9年間を見通したカリキュラム・マネジメントを実現するための研修時間や児童生徒と向き合う時間を確保しています。

乗り入れ指導

中学校の教員が小学校で、教科の専門性を生かした指導(数学・音楽・美術など)を行っています。また、小学校の教員による、中学校での道徳授業もはじまっています。



小・中学生の交流

小学校の児童会と中学校の生徒会が互いに交流する企画を考える「小中サミット」に取り組んでいます。また、部活動では、小・中学生がいっしょに活動する機会を設けています。



小・中学校合同の研修会

各中学校区の教職員が集まり、児童生徒の発達の段階にあわせ、どのような支援をすることで「小・中学校の学びがつながるのか」という視点で研修会を実施しています。





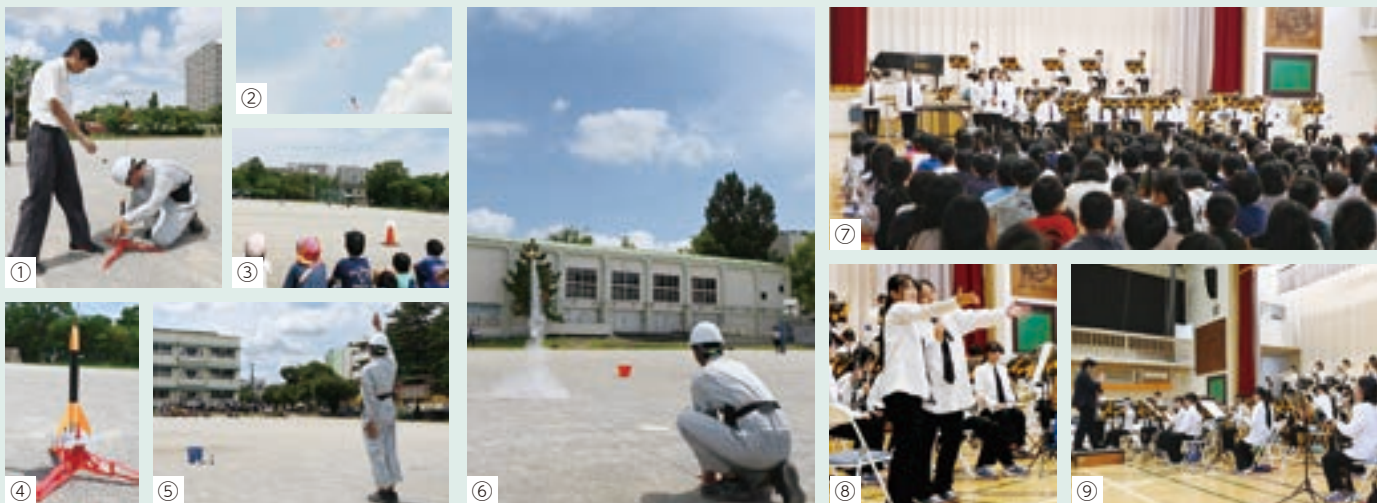
志木中学校
すずき なおき
鈴木 直樹 先生(音楽)

生徒と先生がお互いに理解しあえる

私が小学校への乗り入れ指導をするようになったのは、中学校で歌唱の指導を行っていて、中学生からの指導では限界があると感じていたからです。小学生の時期から基礎や基本の指導ができていたなら、中学生になってもさらに可能性が広がると考えていました。以前勤務していた志木第二中学校では志木第二小学校、志木第四小学校の4年生に乗り入れ指導を行っていました。その成果は本当に素晴らしいもので、小学校の指導とのつながりの大切さを改めて感じることができました。

小学4年生から歌唱・器楽・鑑賞の基礎や基本を学ぶことにより、5・6年生でさらに伸ばすことができます。そして中学生になり、小学4年生のときに教えた生徒と再会し、生徒と先生がお互い理解しあえる関係で授業を行うことで、基礎や基本を習得している生徒が多く、より高いレベルでの授業をすることができました。現在の志木中学校区においても小中一貫教育に力を入れて取り組んでいきます。

教育の最前線 ～先生が語る小中一貫教育～



①②③④⑤⑥…中学校科学技術部によるロケット打ち上げを小学生の前で披露

⑦⑧⑨⑩⑪…中学校吹奏楽部による小学校での演奏



宗岡中学校
やまあさ みさと
山浅 美里 先生(体育)

小学校と中学校の架け橋に

小学校から中学校へ人事異動したことで、改めて学習面や部活動で求められる「自主自律」が、小学校と中学校での違いとして見えてきました。中学校に進学すると、自ら目標を設定・計画・実行する力が必要になります。また、自分で自由に決めて実行することができる反面、結果に対する責任が生じるほか、小学校と比べ、何事にも一人で行う必要が出てきます。その結果、中学生は一気に社会への道を進みはじめる時期と感じました。

そこで、2点意識していることがあります。1点目は、生徒の窓口になることです。小学校と違い教科担任制になるため、多くの先生と関わる中で、生徒にとって相談しやすい大人の一人となれるように意識しています。2点目は成長を見取り、指導することです。小学生の頃を知っているからこそ、成長した面を見つけて指導することができます。何か行動を起こすときに、失敗はつきものです。失敗という結果のみに目を向けるのではなく、その過程での成長に目を向けて指導していきます。小中一貫教育の推進のため、小学校と中学校の架け橋になれるように日々精進したいと思います。

より分かりやすく、充実した指導へ

小中一貫教育推進教員として、令和3・4年度に志木第二小学校、令和5年度に志木第四小学校、そして本年度は志木第二中学校で授業を行っています。

私は長い間、中学校で数学教員として勤務し、年に数回ほど小学校の授業を参観させていただくことができました。実際に小学校で勤務すると参観だけでは知ることができなかった小学校の先生方のきめ細かな指導に驚くことが多くありました。また、小学校に勤務することで得た指導方法を取り入れることによって、中学校段階の授業がより分かりやすくなり、補充的な指導が充実することに気がつきました。

さらに、小学校の指導と中学校の指導の両方の経験をするにより、教科の系統性に対する理解が深まり、児童生徒が学習でつまづきやすいところを経験的に学ぶこともできました。小学校高学年における教科担任制の導入によって、義務教育9年間の見通しを持った教科指導が、より充実すると感じています。



小中一貫教育を推進する取り組みを進めている中で、各中学校区の先生たちがどのような変化を感じているのかを伺いました。



12⑬⑭⑮…あいさつ運動による小・中学生の交流

教育課題を乗り越えるために

「多岐に及ぶ教育課題を乗り越えるには、義務教育9年間で俯瞰的に捉えることが大切です。『小学校はここまで。中学校はこれだけ。』と学校段階に固執する限り、義務教育の輪郭をつかむことはおろか、課題の整理にすら行き着きません。」年度当初、宗岡第二中学校区(宗岡せせらぎ学園)の先生方を前に私が伝えたことです。

とはいえ、教育観の刷新は一筋縄では行きません。教職員一人一人が大切に培ってきたものだからです。そこで今年度の研修では、日々進行する教育内容を学びと育ちに再整理し、系統を立て直すことに力を注いでいます。「小学校段階での丁寧な指導方法を取り入れたことで、生徒の漢字学習への関心が高まった。」「情報共有の仕方を中学校に学び、組織運営の改良を進めた。」などの声が聞こえはじめています。こうした小さな気づきや営みこそ先生方の変容の表れです。そして、その蓄積こそ「ふるさと宗岡を愛し、誇りを持って、地域に貢献する子供を育成」する推進力にほかならないと私は信じています。

